

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>



2024

6

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 5月例句会	21
川柳吟行会「ぼ」	30
十和田たてがみ川柳会 4月句会報	27
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	20
Infomation	34～

カンテラ

むねこ

皆様、ゴールデンウィークをどう過ごされましたでしょうか。

好天が続いたお出かけ日和、そんな中の5月例会に大勢の方がお集まりくださいまして誠にありがとうございます。

ところで、川柳ステーション2024がいよいよ近づいて参りました。

事前投句の締め切りが6月28日ですのうっかり忘れないよう、よろしくお願ひします。

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

ハミングが風に乗らない夕霞 夏草ふぶき

午後の海 結果ばかりを訊いてくる 熊谷冬鼓

熊谷冬鼓さん、「聞く」じゃなく「訊く」なんだね。

広辞苑を引くと『き・く【聞く・聴く】？他五？1言語・声・音などに対し、聴覚器官が反応を示し活動する。

⑦（「訊く」とも書く）尋ねる。問う。「道を―・く」「都合を―・く」「己の胸に―・け」◆広く一般には「聞」を使い、注意深く耳を傾ける場合に「聴」を使う。』とあります。こだわっているんですね。で冬鼓さん

午前の海は「どうしてそういうふうにするの？」とか「なぜそんなことしてるの？」とか聞いてくれるのに、

「午後の海」は「結果どうだったの」としか「訊いてくれないのですか。「午前の海」の方がやさしいんだね。違う？」

B群

人を呼ぶ薔薇を育てている限り 吉田州花

A群

さざ波を宅急便が置いていく 安藤なみ

ひよっとして悪女だったか良く眠る 辻井洋子

花道の途中に踏絵敷いてある 瀧尻善英

ゾンビの皮をかぶろうかスケルトン 嵯峨山登

ネットでは議員バッジは一円よ 村井規子

花嵐誤解もするしされてるし 斎藤泰子

うさんくさい女演じて数十年 まきこ

はるでしたものしりでした詐欺でした 鳴海賢治

オッパイをぴーんとはっている正義 芝岡かんえもん

何にも言わないがそこに山がある 城後朱美

点線を追うのをやめて気まま旅 まみどり

沈丁や父の齢を越えて聞く 戎 踊兵

法則に逆らって散る日のサクラ 三浦蒼鬼

好きだった男に生えるねじり花 田久保亜蘭

つじつまを合わせてくれるマヨネーズ ひとり静

私の夜だなあ寂しい貌してる きさらぎ彼句吾

幾年の轍を花は今ひらく 村上てる

チエックインする並んだチューリップの先頭で 柳本恵子

無用の用を重ねかさねて花吹雪 吉見恵子

葬送のソメイヨシノは満開に 守田啓子

守田啓子さん、「葬送」って『そう・そう【葬送】

遺体を墓まで葬り送ること。また、葬るのを見送ること。送葬。』（広辞苑第七版）だよ。身内とか友達とかで亡くなられた方がいたのかな。「満開」の桜で送ってあげるっていいなあ。「葬送のソメイヨシノ」はやっぱり「満開」でなくちゃね。

C群

一握の砂かも鯖の切身かも 宮井いずみ
 出汁とられた顔でやってきた四月 米山明日歌
 三叉路の匂いを共有しませんか 小野五郎
 さくら散るらむ闇の涙を見せぬよに 奈良一艘

宮井いずみさん、「一握の砂」って石川啄木の歌集のこと？その歌集に収録されている「頬につたふなみだのごはず一握の砂を示しし人を忘れず」の「一握の砂」のこと？それとも単に「一握りの砂」ということ？「鯖の切身」に対応しているんだから単に「一握りの砂」ということかも…（汗）

米山明日歌さん、「四月」ってそうなんだ…。「出汁」って「だし」で、広辞苑でいうところの『だし・じる【出汁】鯉節・昆布・椎茸（しいたけ）などを煮出した汁にだし。だし。』のことだよ。『出汁とられた』だから、旨いところが全く残っていない状態だよ。『四月』って、明日歌さんにそんな「顔」を見せたりするので

か。どうしたんだろ。

小野五郎さん、「三叉路の匂い」を見つけたのですか。「三叉路」に「匂い」があるって話を聞いたこともないし、嗅いだこともありません。「三叉路」ってみんな同じ匂いがあるのですか？どんな匂いがあるんですか？独特の匂いがしそうですね。いい匂いですか？ボクにも「共有」できるかな…。それにしても、すごいものを見つけました。川柳は意外性がなくちゃね。

奈良一艘さん、「さくら散るらむ」って平安朝の歌人みたいですね。紀友則の百人一首「久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散るらむ」を思い出しました。この歌の「らむ」は「どうして？のだから」という意味の推量の助動詞で、「どうして桜の花は散っていくのだから」と散り急ぐ桜を惜しむ気持ち、そこはかとなない感傷が詠まれていると言われます。一艘さんも同じ気持ちですね。句の後半の「闇の涙」がギョリと光って凄みがあります。奥様のことを思っているのですね。

おかげようき川柳社会員雑誌集

無人駅

★無人駅5月月間賞

霏だし字は小さいし独りだし

斎藤 泰子

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

そうだニーサを買おう 花筏
カニカマの影武者が蟹なんよ
さくら散るらむ 闇の涙を見せぬよに
濁点の付いた中指だけ立てる
爪痕もキャリアもみんなロクデナシ

先月号の
お気に入り

スコヤカナルトキハサスガニムリデス
ビョーキデヨカッタオモウヒトトキ。 Sin

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

あくびしたとたんにころげ落ちました
説明責任はたしますかこの鳥
この戦食べれるところありません
ダメなものダメと言えるようになった
はるでしたものしりでした詐欺でした

先月号の
お気に入り

思い出を吐くには空が青すぎる
素直な気持ちにうたれました。 まきこ

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

ポケットはぼんやり月を見えています
つじつまを合わせてくれるマヨネーズ
あんなことこんなことにも落とし穴
世界の片隅ごろんごろんごろん
凭れていたんだ思い出らしきもの

先月号の
お気に入り

やや折り目のあるズボンが語りだす 芝岡かんえもん
このややに作者の納得っていうか諦観みたいなものを感じました

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

出立は黄色い色のピンヒール
もう少し委ねますねと美人の湯
ジーパンの穴から見えるバックボーン
ボロボロの雑巾からの暇乞い
ポテトチップス銀河になってからの事

先月号の
お気に入り

まきこ【まきこ・青森県青森市】

お茶の間の真ん中にある深い穴
うさんくさい女演じて数十年
似顔絵の晴れた部分は閉じておく
お世辞なら満腹ですわウフフフ
才色兼備呼ばれてみたい金魚です

先月号の
お気に入り

茶をすすめる急がず長居せずこの世
そんな境地になってます。 守田啓子

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

つまらない丸と三角バツ四角
点線を追うのをやめて気まま旅
満たされってそういうことさ楢円
歪さをどこに隠したのか破線
矢印は私に帰るハグをして

先月号の
お気に入り

転んで起きて転んで起きて起きている
だよね、転んだままじゃいけないよ。 斎藤泰子

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

法則に逆らって散る日のサクラ
残り時間をLEDに換えてみる
ひとつずついのちのボタン磨いている
あるあるにどんだん近くなる夕日
きのうと違う陽の匂い風の色

先月号の
お気に入り

決心をするためにある長廊下
そうです、人はみな悩んで大きくなるのです。 ひとり静

峯島 妙【みねしまたえ・大阪府大阪市】

むずかしい話は嫌いひよこ豆
アキストゼネコ何度やつてもトド終わる
冷めきつた小瓶ティーバッグ二人分
既視感が足を掴んでいるピアノ
雨のハイウェイどうしたらよかったの

先月号の
お気に入り

どちらかと言えばぎらいに入りそう まみどり
そしてすぐきらいになっていくんです、きつと。

宮井いずみ【みやいずみ・大阪府大阪市】

咲いちゃった波は忘れたことにして
ジヤイアンを降りて真夏のオリオン座
哲学のゾンビの影かつノゼミか
夕闇の動物園は前のめり
一握の砂かも鯖の切身かも

先月号のお気に入り
ほらここで許すオンナよ私って 吉田吹喜
私もすぐ許す女です。だって面倒くさいんだもの。

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

人間は針の筵で覚醒し
ネットでは議員バッジは一円よ
アップルパイ嘔むとじよんから節が鳴る
明日を待つ為に心は折れさせぬ
今一度輝いてから泣きなさい

先月号のお気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

ホントのことは誰も言わない茶番劇
大事なことは裏でこっそり決めている
蟻地獄から抜け出せぬ依存症
残り時間わずか何して遊ぼうか
80の壁を越えるか認知症

先月号のお気に入り
茶をすする急がず長居せずこの世 守田啓子
同感です

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

桜咲く春になるまで靴を干す
キラキラの想い出開く春の箱
哀しさをコーヒー二杯で流し込む
入院の夫に引かれる後ろ髪
幾年の轍を花は今ひらく

先月号のお気に入り
預かっていたのち背負って生きている 三浦蒼鬼
母親から預かった命は大事にしなさいとよく言われたこ
とを想い出しました

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

春掘りの牛蒡みたいな夫婦です
葬送のソメイヨシノは満開に
ようするに紙のストロー木のフォーク
春掘りの長芋そんなこんな恋
なるようにすればなんとかなる波紋

先月号のお気に入り
戦争を棺のなかに閉じ込める 笹田隆志
「キレイですね。」

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

春の数式解けても解けなくても
チェックインする並んだチューリップの先頭で
ワルツからルンバにかわる雨の午後
こんなところにヘルペスチキトクの知らせ
ごく自然に手を放しておりました

先月号のお気に入り
あいまいを貫き通すグラデーシオン まみどり
君のそんなところが好きなんだけどな。

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

仮縫いはした方がいい春はこれから
葱香る朝は軍艦マーチから
人を呼ぶ薔薇を育てている限り
誰よりも過保護な妻でまた春で
日替りの不調五月のシクラメン

先月号のお気に入り
転び方跳ね方エイヤーつと呪文 熊谷冬鼓
呪文がかからなくなってきたので呪文の新調を考えてます

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

コロナ禍でほどけた絆そのまんま
足を組んで寝そべる 自由人だね
発酵中 背中に貼っておく「ちよすな」
・・・句読点のように雲
休みたい休みたい休みたいんだ

先月号のお気に入り
本名は疲労骨折しちゃったの 守田啓子
なるほどね。疲れてる私には染みる句でした。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

片栗のフツと広がる独り言
春光や裏もおもても迷い蝶
露の薫苦し 野生の眼になつて
思いどおりにならぬと振じる藪椿
無用の用を重ねかさねて花吹雪

先月号の
お気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

素直な気持ちにうたれました。
たった今判明したの周回遅れ
刺激臭初夏を彩るために
目標はそこ 行きたまえリンパ液
シエスタの似合う背中息災で

先月号の
お気に入り

やや折り目のあるズボンが語りだす 芝岡かんえもん
ピシッとじゃなくてややというのがいいですね。どんな
語りなのか聞いてみたいです。

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

半身はいつも火種をまつている
何の刑 どんどん尖るブーメラ
チョコばかり出す人がいてパーを出す
出汁とられた顔でやつてきた四月
遊びではなくなつてきたトリカブト

先月号の
お気に入り

スーツより野火の匂いをする男 葉 閑女
野火の匂う男。私も好きです。でもなかなかいませんね。

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

さざ波を宅急便が置いていく
暑い暑いヒートテックは脱げないし
木の芽時手まで引つ掻くおろし金
急に雨でんでん虫に借りる軒
冥界の門に募集のビラがある

先月号の
お気に入り

窓開けてけなげな顔で嘘をつく まぎこ
けなげな顔、想像が尽きません

一帆【いちほ・秋田県秋田市】

揺れている林檎の着地見てる月
鉛ひとつ持ち寄つてする立ち話
39未だ危ういチューリップ
潮満ちて薄紫の輪廻生む
がむしやらをもう一度水平線に蝶々

先月号の
お気に入り

あれが嫌だこれも嫌だと生きてきた むさし
そして、あれも好きだこれも好きだとも思つて生きて来
ました。楽しい！

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

前頭葉ブクブク甘酸っぱくなった
喝采が欲しいあつちの射干と著莪
秀吉のポイは金欄緞子なり
雨戸ガタピシ銀河鉄道ドタドタ
桜蕊詰る通販雨蛙

先月号の
お気に入り

戎 踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

アオバトを透明にする深い森
沈丁や父の齢を越えて聞く
人の世の丑三つ時を一人呑む
どう見ても目出度い顔になる鏡
貯め過ぎた言葉に全部逃げられる

先月号の
お気に入り

斬新な案が吹き矢の的になる 瀧尻善英
水切りに矢尻の石が丁度いい

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

うなぎ屋の前で止まった青嵐
ともだち登録しておく枯木灘
カルメンがギターで椎茸干している
そよ風につつて巨神兵がやつて来る
三叉路の匂いを共有しませんか

先月号の
お気に入り

金瀬達雄【かなせたとお・富山県高岡市】

まだ青いアストラル体 春の雨
よしなさいボクは光の戦士です
藤棚の愉楽千年光る闇
砂川も砂肝にされ砂嵐
ボクサーの姉もボクサー御御御付

先月号の
お気に入り
本名は疲労骨折しちゃったの
私は骨ではないようですが・・・
守田啓子

熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

穴ぼこのアスファルトからイヌフグリ
心してゆかねば 捕虫網たてて
漫然と生きてきちゃったなあ蜘蛛よ
午後の海 結果ばかりを訊いてくる
屋根の錆この先10年あるとして

先月号の
お気に入り
手を振り続ける離れてゆくものに
「続ける」が切ない。
ひとり静

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

私の夜だなあ寂しい貌してる
鼻唄で泡立てなくちやがらんどろ
優先順位尋ねなくなる別れ際
月はあの時の逢瀬の位置なのに
空空寂寂 たただだ水は水でいる

先月号の
お気に入り
ただ付けてきたわけじゃないのよ乳房
こんな啖呵きつてみたい！
田中 薫

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

花嵐誤解もするしされてるし
その人の言葉の欠片持ち帰る
おひさまが居てくれるものだいじょうぶ
友達が笑い話にしてくれる
タンポポよ余所のお庭で咲きなさい

先月号の
お気に入り
想い出ししようとしたのは何でしょう
きっとおんなじことを考えてると思います
夏草ふぶき

坂本清乃【さかもとときよの・青森県逢田村】

語り合うために雑草残してる
急ごうよ春限定がざわついて
揺れるたび惑わす桜に乾杯
悪いのはセロリーにする夕間暮れ
桜散るドロップ飴になるために

先月号の
お気に入り

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

春爛漫ゾウの背中で読む西遊記
鯛ずつしり朧月夜が落ちてくる
葉桜の頃合いをみるオブラート
ひぐらしが痛い純然たる被曝
四つ角に幟を立てて春を売る

先月号の
お気に入り
こんなにやく羊&透明エレベーター
この微妙な不調和感がなんともいえません
岩根彰子

嗟峨山登【さがやまと・佐賀県大和町】

踏まれたところからひかりだすスマホ
結局は保菌者だけのムラになる
ゾンビの皮をかぶろうかスケルトン
ジキソウシヨウジキソウシヨウと牙を磨ぐ
母親になったかノラにサクラサク

先月号の
お気に入り
崖つぶち黒山羊が喰う日本地図
童謡めいたシニールな社会歌。黒山羊は悪魔か犠牲者か。
どっちも人間か。
金瀬達雄

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

ひらがなの形で拝んでるワタシ
期限切れもうすぐゴミになります
なごり雪 あなたを今も使用する
おまえもおまえも齧つちまった毒林檎
オッパイをぴーんとはっている正義

先月号の
お気に入り
わたしからわたしが出ていったみたい
あつけからんとしているわたしが素敵。
ひとり静

城後朱美【じょうご あけみ・福岡県八女市】

何にも言わないがそこに山がある
凝りもせず登りのきつき囁みしめる
誘う人なくて一人の山歩き
満たされています私に山の友
誘われて早く目覚める山登り

先月号のお気に入り
記憶があるうちに御飯を食べている 小野五郎
御飯食べたかなと思うこのころ。母の方がしっかりして
います。

Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

この夕焼けの送り主 出てこい
泣くなんて まるで人間みたいだな
いま なんとなく 寂しさと 目が合った
明日も生きていたいと思ひ込んでいる涙
ははは 結局 殺し合うのかよ

先月号のお気に入り
わたしからわたしが出ていったみたい ひとり静
じゃあ、結局「わたし」かあ。

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

好きだった男に生えるねじり花
蟋蟀が長旅をして入る瓶
本名がないから飛行機が落ちた
もう一本の糸はどうにか赤くなる
太文字で書く裸体まで掘り下げて

先月号のお気に入り

田中 薫【たなかかおる・青森県弘前市】

メニューから飛び出す吐息花と化す
まだ走る走れると思っていたの
ツンツンガタガタグラグラ今の地球
生きるつて雲を見ること悩むこと
まつたりとモンシロチョウで花花春

先月号のお気に入り
転んで起きて転んで起きて起きている 斎藤泰子
今のわたしです。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

すかすかのからだであらーめんたべたい
エンピツが金色すぎて叱られる
点線の先に母だという呪い
ドラキュラになつてく右の鼻の穴
巻き戻す時間四度目の満月

先月号のお気に入り
地吹雪の見当違いな口説き方 夏草ふぶき
方向を見失ったとしても、どんな口説き方が気になる。

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

見栄じゃないちよつとオシヤレをしただけよ
花道の途中に踏絵敷いてある
出くわした熊には罪がないけれど
ギロチンのような国境線の闇
どの爪も俺の味方だ丸く切る

先月号のお気に入り
どちらかと言えばぎらいに入りそう まみどり
食べ物に好き嫌いのない私ですが、そういうことであ
りますよね。人間も同じかも…。

旅男【たびお・青森県五所川原市】

幕下りる死体物体お茶タイム
友達を解消 兄弟も解散
アブラカタブラかたずきたまえ
心を流す夜半のトイレ
春だる気怠花咲くに要る力

先月号のお気に入り
次郎柿男性名刺に入れておく 四ツ屋いずみ
ヒメジョオン僕らの仲間本に押す

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

摺り足で掴まえに行く澄んだ音
ありのまま写す鏡は要りません
矢印の嘘つき春は居なかった
本名は枝にかけてた忘れてた
ひよつとして悪女だったか良く眠る

先月号のお気に入り
また誰か死ぬの？波打つ水平線 土田雅子
じわりと心に沁みました。

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

幽体離脱只今低空飛行中

カメラのシャッターが押せなくなって鬱

ハミングが風に乗らない夕霞

「生き切った」そう書いてある遺言書

微笑みだけで消去する落差

先月号の
お気に入り

わたしからわたしが出ていったみたい ひとり静
色んなものをくっ付けて戻ってきたことがあります。

むさし【むさし・青森県蓬田村】

かちかち山のタイムマシンの秘密基地

モナリザと赤い鼻緒とガニマタと

八日目の蟬をカッコの中に置く

ジャガイモと紫式部を茹で上げる

朧月カエルの一茶が飛びこんだ

無人駅は自由な発表の場です。
未発表作品5句をお寄せください。
また、お手元の最新号から、お好きな作品とそれ
に対する簡単なコメントもお寄せください。

スマホやタブレッ
トで投句する↓



おかじょうき川柳社：誌上句会

0 - OKAJOKI ZERO LINE -
0 番線

課題と選者（2句詠・共選）

題：『島』

選者

真島久美子（佐賀県）

Sin（青森県）

7/31 〆切

投句方法

※誠に申し訳ありませんが、郵送・FAXでの応募は受け付けておりません。

【ウェブサイトからの応募】

<http://okajoki.com/>へアクセスし、「投句する」→「0番線」を選び、
作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。



【メールで直接送信】

メール本文内に「作品（2句まで）」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号（ふりがな）」「電話番号」を明記し、件名に「0番線」として、守田啓子宛にメール送信してください。＜送信先アドレス：moriko@okajoki.com＞

投句料（※おかじょうき川柳社会員は無料です。）

1,000円（発表誌呈）*発表誌の送付をもって、投句料受領したものとさせていただきます。

◆振込先：郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

賞

特選の方に青森県特産品を贈呈。

深艘心理

アニサキスへ持たす砂糖ひと掬い

岩根彰子

(会員雑詠集 無人駅4月号より)

私が二十歳前後だった頃の話だが、その頃私は父の経営するレストランで働いていた。そのレストランは津軽地方のど真ん中にあり、従業員は12〜13名程おりそこそこに繁盛していた。

賄い専門のおばちゃんもおり、昼、夜と賄いが出て感謝の毎日。ある夜の賄いで「鱈の昆布じめ」が出た。この料理は津軽独特の郷土料理。それはそれは活きの良い鱈で、安かったせいもあり一本買いたらしい。身は塩をして余分な臭みを取り、軽く酢につけて昆布でめる。その他の部位はサッと茹でてじゃっば汁(味噌汁)に。食欲旺盛な若者(馬鹿者?)だった私は2、3杯お代わりをして、たらふく食べた。事件はその夜の事だった。

まるで腸捻転でも起きたかのように腹の痛さと嘔吐で転

げ回り、下痢で苦しんだ。医者の見立てでは昆布じめをする際、身を厚く切り過ぎたのと、甘塩だった為、身の中に潜んでいたアニサキスが完全に死んでいない状態だった。そーな…。幸い2、3日で全快はしたけれども、それ以来今でも鱈の身は食べられない。

さて、掲句だが、近頃ネットや新聞で賑わっている私利私欲による「宝島死体遺棄事件」や、国家権益しかないだろう「イワンのバカ戦争」などの理不尽な人間に対する逆説的ラブレターだったとしたら大いに歓迎するものである。

行け行け頑張れアニサキス君なのだ。

いいのだ。キミを本質的に好きではないが、人類の傲慢さには是非警鐘を鳴らしてほしいと思うのだ。うむ。

鳴るたび 舞い戻る

5月4日(土) 午後1時～ アウガ5階 小会議室

▼出席者 (15名)

葉閑女・熊谷冬鼓・田中薫・渡邊こあき・守田啓子・きさらぎ
彼句吾・野沢省悟・小野五郎・Sin・夏草ふぶき・むさし・
戎踊兵・笹田隆志・まみどり・須藤しんのすけ

▼投句者 (18名)

嵯峨山登・安藤なみ・柳本恵子・米山明日歌・旅男・岩根彰子・
宮井いずみ・吉松澄子・城後朱美・芝岡かんえもん・郷田みや・
鳴海賢治・峯島妙・村上あつこ・一帆・斎藤泰子・まきこ・坂
本清乃

おかじょうき川柳社

5月例会句会

席題『ボール』

青森県青森市 葉 閑女 選

【佳作】

返球が逸れて隠れた妥協点
君たちのボール母に届いてません
ビーチボールしばむアイデア募集中
リス走るボール転げて来るように
不機嫌をまりと一緒に蹴ってやる
サラダボールにまぎて込んだたウツその他
握りこぶしに着せる肉球の着ぐるみ
三振が続いて大あくびのボール
プーチンにダンクシュートを決めてやる

夏草ふぶき
田中 薫
須藤しんのすけ
戎 踊兵
渡邊こあき
熊谷冬鼓
きさらぎ彼句吾
夏草ふぶき
むさし

席題『ボール』

青森県青森市 熊谷冬鼓 選

【佳作】

ドッジボール逃げるのだけは上手かった
握りこぶしに着せる肉球の着ぐるみ
わたくしがボールになれば済む話
ではここで地球を割って見せましょう
サラダボールからこぼれ落ちてる「嘘だ」
ビーチボールしばむアイデア募集中
下くちびる何度噛んでも段ボール
起爆剤スパーボール差し上げる
プーチンをゴールポストに蹴り込んだ

葉 閑女
きさらぎ彼句吾
まみどり
むさし
守田啓子
須藤しんのすけ
きさらぎ彼句吾
まみどり
小野五郎

リラ冷えのボールを握っているロシア
託されたボールの中で塩コショウ
スリーボール五月の空が待っている

小野五郎
熊谷冬鼓

サラダボールからこぼれ落ちてる「嘘だ」

守田啓子

下くちびる何度噛んでも段ボール
ではここで地球を割って見せましょう

きさらぎ彼句吾
むさし

【秀逸】

ハイボールを一つつまみは朧月
光る君にも僕にもふたつあるボール
プーチンをゴールポストに蹴り込んだ

むさし
野沢省悟
小野五郎

【特選】

父亡くすそれが私の始球式
新しいドラマの始まりですね。

S i n

月のしずくで洗い流してから輪廻
ダンボールでつくった棺桶でいいヨ

きさらぎ彼句吾
野沢省悟

リラ冷えのボールを握っているロシア
休養の仕方しぼんでいるボール

小野五郎
戎 踊兵

君たちのボール母に届いてません
プーチンにダンクシュートを決めてやる

田中 薫
むさし

【秀逸】

夕焼け小焼けあなたはボールおいてゆく
約束の朝に飛びこむデッドボール
父亡くすそれが私の始球式

守田啓子
渡邊こあき
S i n

【特選】

ハイボールを一つつまみは朧月
粋な飲み方ですね。

むさし

宿題『コピー』

青森県青森市 野沢省悟選

【佳作】

スタイルがよくなったならコピーです
 気が付けば母に似てきた言い回し
 肋骨の隙間に春をコピーする
 カラーコピー正直すぎて嫌われる
 私が黒くつぶされてるコピー
 知るもんか癌も痴呆も遺伝性
 脳天の荒野に似てるゴビ砂漠
 わたしは私ママのコピーじゃないってば
 ねじ切れる前に地球をコピーする
 生き様もコピー 死に様もコピー
 何枚もワタクシが出てきてしまった
 ほんものを超えてしまえばコピーじゃない
 コピーした君の吐息が辛すぎる
 遠い日のコピーお茶くみ玉の輿

まみどり
 熊谷冬鼓
 むさし
 斎藤泰子
 斎藤泰子
 旅 男
 夏草ふぶき
 葉 閑女
 夏草ふぶき
 S i n
 芝岡かんえもん
 吉松澄子
 戎 踊兵
 まみどり

その海はわたし映してくれぬ海

慎ましい人を真似てる花筏

わたくしのコピーを池で釣り上げる

DNAのコピーエラーでできた僕

コピー機から漏れてくるのは水の音

ごめんなさいは誰のコピーか知っている

【五客】

各部屋の老眼鏡にわたしをうつす

AIは私をコピーしてくれぬ

答弁はカンペとコピー読むばかり

降りやまぬ雨よ宿坊写経会

廃校またひとつ街はトナー切れ

【人位】

「ゼンセイキ」コピーしようとしてる国

【地位】

平和です昨日のコピー繰り返し

【天位】

含羞が漂うカニカマのカマに

『どうかするとカニよりうまいカニカマ。それでもコピーなのだ。』

米山明日歌
 夏草ふぶき
 安藤なみ
 村上あつこ
 米山明日歌
 笹田隆志
 須藤しんのすけ
 熊谷冬鼓
 村上あつこ
 宮井いずみ
 宮井いずみ
 嵯峨山登
 まみどり
 きさらぎ彼吾

宿題『送』

青森県外ヶ浜町 Sin選

【佳作】

さりざりと睡蓮の音送られる
 優先者名簿漏洩「地球号」
 着払いで届く「これ好きだったでしょ」
 前へ斜めへ送付する桜蕊
 履いている靴まで送ってどうするの
 葬送の朝に不粋な竿竹屋
 とれとれのオノマトペならクール便
 いいね押す取説どこにありますか
 五年後の私に送る花吹雪
 届きましたかホカホカの拳骨
 外は雨送らなかつた荷が二つ
 忘れられないように黒羊羹送る
 マニユアルのとおりに終えた通夜葬儀
 雨の日のたった二行が未送信

峯島 妙
 嵯峨山登
 熊谷冬鼓
 岩根彰子
 笹田隆志
 葉 閑女
 宮井いずみ
 熊谷冬鼓
 むさし
 岩根彰子
 まきこ
 吉松澄子
 野沢省悟
 郷田みや

金魚やつと生まれた送金します

若者よ送りバントをしてあげる

精子は送付しました後は宜しく

ドーナツの穴だけ送ります、どうぞ

奥様にあなたのすべて送致する

手を振るよ檀山行きバスだけど

【五客】

モアイ像になぜかウインクしてしまう

夜間飛行でもみあげを投げる

下取りに送料が要るゴジラの毛

頼んでもいない真つ赤な請求書

ままならぬ寝癖のついた嘘送る

【人位】

急逝という劇薬を渡される

【地位】

あさがおの浴衣できたら送ります。

【天位】

面倒になったら私ごと送る

『困る。』

鳴海賢治
 渡邊こあき
 旅 男
 むさし
 峯島 妙
 守田啓子
 むさし
 岩根彰子
 安藤なみ
 熊谷冬鼓
 米山明日歌
 葉 閑女
 須藤しんのすけ
 まみどり

宿題『自由詠』

青森県青森市 夏草ふぶき選

【佳作】

ここだけの話をを入れておく時計
アドレスはシロツメクサの咲くあたり
ズレ幅が大きくなって届かぬ手
素に戻る老いの佳境を生きている
根性は無いが妄想ならできる
控えめがいいね正しいことを言う
アイロンは山吹色を上限に
新緑のアウトシユビツツが燃えている
渋滞を眺めてみんな空の下
卵焼変らぬ味で束ねてる
どちらにもなびいて芯の等身大
物言う影を裏の畑に置いて来た
おすすめのフラグうるさい文庫本
ペンケース開ければ紋白蝶乱舞

郷田みや
吉松澄子
渡邊こあき
斎藤泰子
斎藤泰子
吉松澄子
宮井いずみ
安藤なみ
熊谷冬鼓
坂本清乃
まみどり
むさし
峯島 妙
宮井いずみ

気にかけて下さいもつと丸くなる
あとくされないようにする塩コショウ
空の堅さを見上げて渡り鳥
切羽詰まればゴキブリにでもなつてやる
明日からは円は四角に書きましよう
楊貴妃を待たせてレシートを貰う

まみどり
まみどり
柳本恵子
笹田隆志
まきこ
安藤なみ

【五客】

甘納豆すぐ許すはずないでしょう
春の陽に濾過されてゆく正義感
斎場のボタン 誤嚥を繰り返す
年輪のここが前世の終わり頃
疑問符で終わりましたねティッシュ箱

渡邊こあき
須藤しんのすけ
守田啓子
戎 踊兵
岩根彰子

【人位】

モノクロの指で小さな芽を間引く

郷田みや

【地位】

迷子です一本道のはずなのに

村上あつこ

【天位】

目覚まし鳴るたびこの世へ舞い戻る

むさし

●寝ている間はあの時とこの世を行き来しているのだろうか。

十和田たてがみ川柳会4月例会

○日時 4月20日(土)

○会場 十和田労働福祉会館

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・斉藤蛙井・佐藤まさあき・白山修治・瀧尻善英・福田芳記・村上昌子・高田幸柳

○投句者 磯島雅男・城後朱美

■席題『磨く』

【平抜き】

輝くは行動で決めひたむきに
顔の肌磨けばしわも消えるかな
レンズ磨き熟練工の匠技
婚活に磨いた知性邪魔をする
禁煙をしたらキッチン光り出す
真つ直ぐな切磋琢磨に損はない
無情にも磨いた車黄砂降る
メンタルを磨き綱獲る尊富士
盤磨き暮仇を待つ昼下がり

高田 幸柳 選

白山 修治
福田 芳記
斉藤 蛙井
佐藤まさあき
村上 昌子
木村奈生美
佐藤まさあき
瀧尻 善英
佐藤まさあき

【秀逸】

研磨した珠玉の一句天を獲る
磨いても光らぬ玉を捨てきれぬ

瀧尻 善英
齊藤 蛙井

【特選】

悟りの目こころ磨けば見えてくる

瀧尻 善英

■席題『磨く』

【平抜き】

あきらめず夢中で磨きついていく
磨かねば錆びつく脳で考える
外交を忘れず牙だけ磨いている
一人旅心磨いて帰宅する
天下取る貴方のために磨く肌
顔の肌磨けばしわも消えるかな
真つ直ぐな切磋琢磨に損はない
歯磨きをしても落とせぬわだかまり
禁煙をしたらキッチン光り出す
無情にも磨いた車黄砂降る

瀧尻 善英 選

白山 修治
齊藤 蛙井
木村奈生美
高田 幸柳
福田 芳記
木村奈生美
村上 昌子
佐藤まさあき

【秀逸】

丹精に磨きをかけた七光り
婚活に磨いた知性邪魔をする

高田 幸柳
佐藤まさあき

【特選】

盤磨き暮仇を待つ昼下がり

佐藤まさあき

■宿題『港』

村上 昌子 選

【平抜き】

漁出来ず自然の猛威ただ嘩然
 カラス二羽 港とともに暮れてゆく
 マグロ揚げ港へ帰る男意気
 大漁旗トライ祝福サポーター
 大漁だ浜に喜び活気出る
 会者定離ドラマ重ねて来た港
 深夜便港を癒す八代亜紀
 港無く未だ未だ続く戦争画
 港には帰れぬままに揺れている
 港から元気な朝日生きる糧
 ヒゲ面の猛者が守った港町
 地震速報港一気に凍りつく

【秀逸】

白山 修治
 斉藤 蛙井
 佐藤まさあき
 福田 芳記
 白山 修治
 木村奈生美
 高田 幸柳
 木村奈生美
 城後 朱美
 久保あざみ
 高田 幸柳
 城後 朱美

【特選】

瀧尻 善英

父さんの優しさ 母さんの港

■宿題『実る』

佐藤まさあき 選

【平抜き】

ラヴレター実らぬ恋を捨てきれず
 雪溶けて小さな畑茄子トマト
 いま種を蒔けば必ず実る筈
 交配を重ね甘いミニトマト
 雑草も大輪めざし難に耐え
 実る日を信じて夢の種を蒔く
 実るまで待てぬ大人が多すぎる
 出来秋を祈り汗して起こす土
 ふるさとへ実らぬ恋が置いてある
 努力つて結実すると限らない
 ゆっくりと実り一気に枯れていく
 淡い恋やつと実つて共白髪

【秀逸】

斉藤 蛙井
 久保あざみ
 瀧尻 善英
 瀧尻 善英
 高田 幸柳
 木村奈生美
 城後 朱美
 高田 幸柳
 斉藤 蛙井
 城後 朱美
 斉藤 蛙井

【特選】

城後 朱美

お日様は実る時間を惜しまない

■宿題『真ん中』

互選

- ①共に祖母同居始めは遠慮がち
- ①みずくさい渡る世間も春はある
- ①みずくさい さそいなかつた仲間内
- ①良い人を演じて他人行儀する
- ②友人も話せない事あると知る
- ③「おはよう」へ敬語で返す「ごさいます」
- ④みずくさい 礼言うほどの仲でなし
- ⑤着信が敬語になって終わる恋

村上 昌子
 斉藤 蛙井
 福田 芳記
 木村奈生美
 久保あざみ
 瀧尻 善英
 佐藤まさあき
 高田 幸柳

◆十和田たてがみ川柳会6月句会案内◆

【時】6月22日(土)午前10時から 【所】十和田労働福祉会館 【宿題】(各題三句詠)『モデル』久保あざみ 選 / 『もやもや』斉藤蛙井選 【互選】(二句詠)『物足りない』当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入) 【席題】一題(三句詠・共選) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名 【投句先】〒034-0212 十和田市米田字 桜平72 高田幸柳宛

参加者募集

川柳吟行会「ぼ」

課題「酒」



吟行が好きだ。コロナ前は毎月吟行会があった。美術館、デパート、古書店街などどこへ行っても、吟行会ならなぜか句が降ってきた。ひとり吟行でも同じように集中できればいいのだが。

また、吟行会の時の選はいつもの選と微妙に違う。同じ空間にいて、自分が詠みたかった景をすつといい句に仕立てられるとつい特選に取つてしまつたりする。青森ではリアル吟行も計画されているようだ。できることなら飛んで行きたい。

(宮井いずみ)

【10点】特×4・佳×2

ウオッカストレート戦車が焦げている

小野五郎

【彰子】ウオッカと戦車の取合せに勢いが有り、作者の体から沸々と湧き上がってきた言の葉です。焦げ臭さときな臭さがムンムンします。【州花】ウオッカは無色、無味、無臭だという。戦士のせつなさを思う。【冬鼓】ロシア原産の強烈な酒ウオッカ。焦げていると進行形の表現。終わりの見えない戦地を痛烈に思う。【いずみ】ロシアでウオッカの消費が増えている。戦争のしわ寄せはいつも庶民が被るのだ。ウオッカと焦げた戦車の取り合せが上手い。【文音】ロシアの強い酒ウオッカ。時事吟

として読みました。焦げている戦車だと客観性があつておもしろいと思いますが。【さち】ウオッカの語源が「優しい水」なんて、プーチンにぶつかりたいです。

【8点】特×3・佳×2

居酒屋の便座で君が代を歌う

月波与生

【啓子】結句の裏切りに驚く。問題山積の国の国歌はこんなところでひとり歌うしかないのか・・・【五郎】断トツの存在感を放っている。【さち】ささやかな反逆でしょうか。国家とか国歌のうさんくさが面白い。できれば居酒屋の真ん中で大声で歌って欲しいなあ。【隆志】場末の居酒屋のしかも汚い便座で唄う君が代にこめたアイロニーがいい。【規子】実際私酔つて歌っていたそうです。友人から翌日聞きました。

生命維持装置またの名をキクイズミ

小野五郎

【文音】お酒を命の水と宣卷していた父のことを思い出した。キクイズミは漢字にして欲しかった。日本酒という意味で。【隆志】酒を生命維持装置としたところがいい。しかも、それが郷土の地酒の喜久泉とはまさにベターでした。【かなえ】キクイズミはきつと「喜久泉」。かの田

【6点】特×2・佳×2

姑さんの萩枯れました 献杯

滋野さち

【まあこ】生前は軋轢があつたお姑さんも亡くなって時が経つとその頃は気づかなかつた事等思い出されて：年を重ねての感慨ですね。【ふぶき】残された萩も枯れ、徐々に思い出が消えていくんだとしみじみ思いながら献杯してるのかな。献杯に思いが詰まっているようで素敵です。【冬鼓】時を経て思い出すお姑さんとの諸々。心の声が聞こえた。【いずみ】亡くなったのはスナックのママか？きつと誠実にお店を切り盛りされていたのだろう。こうして悼む人がいる。

【6点】特×1・佳×4

酔ったふりなんかはしない落ち椿

熊谷冬鼓

【妙】この落ち椿の潔さはどうでしょう？後ろを絶つて臨むシチュエーションにエールを贈ります。【朱美】酔っ

たら、コテンと寝てしまう椿の潔さ。【善江】落ち椿の潔さに敬礼です。【五郎】光景が見えてくるようだ。【ぶぶき】潔よさが下5の「落ち椿」で強調されているいい句だと思いました。

【5点】特×2・佳×1

気の抜けた送別会の瓶ビール

峯島 妙

【朱美】送別会の主役は、きつと苦手な上司。たぶん上司の挨拶が長すぎたんだろう。ビールが生ぬるい。【善江】瓶ビールを前にしたモノクロの志村喬さんが戸惑った表情で座っています。そんな情景が浮かびました。【いずみ】送別会があるのだが、なんだか物悲しい。

【5点】特×1・佳×3

コークハイから退職の挨拶状

守田啓子

【吉見恵子】「コークハイ」は、挨拶状の送り主が最も好んだお酒なのだろう。レトリックの換喩的表現で印象深く表現した。作者との関係性が伝わってくる。【冬鼓】コークハイを代名詞のように使って上手い。【隆志】いつもコークハイばかり注文していた後輩もいよいよ退職になるのか。【ぶぶき】若い頃の知り合いからの挨拶状なの

でしょうか、コークハイで表すところが面白いですね。

【3点】特×1・佳×1

酒あまく苦くて今日もパパゲーノ

吉田州花

【与生】二日酔いを「パパゲーノ」と表現して面白い。「あまく苦くて」は説明的。でも前半を地味に抑えたから後半「パパゲーノ」の飛躍が効いた、とも言える。【妙】パパゲーノを知りました。お酒は不可欠ですね。

不発弾だけで終わって千鳥足

夏草ぶぶき

【こあき】告白もできずに酔って帰るなんて気のどくです。せめて告白してください。【まあこ】告白を果たせなかったのですね。

悲しみが消える薬といったはず

柳本恵子

【規子】悲しみが消えると思って呑むんですがそれは本当の心の解決にはなりませんでした。自棄酒は最低です。【州花】それを信じて飲んで飲んで二日酔い

献杯で満たせるだるか月の海

高木まあこ

【1点】佳×1

ほろ酔いの紅い桜でござ候

柳本恵子

酔っていいですか泊まっていますか
輪になって酔えば浮き世も悪くない
降りてきて！ふたりで呑もう春の宵
みずみずしい愛があったね茶わん酒
満開の桜を映す猪口二つ
酔っ払うほどに酒場は美女ばかり
ぐい呑みの焼締め僕をリードする
優柔不断へ波々とコップ酒
沈黙考酒が昔を連れて来る
田子町 イコール我と濁り酒
色褪せた孤独へ料理酒をたらり
酒酒酒春雨ぼとり落ちてくる

城後朱美
吉見恵子
高木まあこ
福田文音
渡邊こあき
月波与生
岩根彰子
城後朱美
村井規子
福田文音
宮井いずみ
笹田隆志

【3点】佳×3

杉玉青しマリィ・アントワネットの恋

笹田かなえ

【与生】「マリィ・アントワネット」への飛ばし方がいい(けど長い)【吉見恵子】「杉玉青し」は、マリィアントワネットの好む、変わった髪型の一つなのかも知れないと思っただ。若々しい恋の始まりを表現しているようだ。取り合わせが面白く妙に納得してしまう句。【五郎】発想が頭抜けている。

【2点】佳×2

あの世でも酔っているらしい赤い星

吉見恵子

【彰子】赤い星を見上げて想ってももらいたいもの。【まあこ】赤い星は御主人でしょうか。ほのぼのとした句です。

さくら恋ほるほる樹下の缶ビール

熊谷冬鼓

【吉見恵子】特に何も言っていないのに絵が浮かんで来る。読者が勝手に想像する句のように感じた。【柳本恵子】最後の桜の前に楽しんでおられますね。

おかじょうき川柳社ウェブサイトからの投句について

現在、おかじょうき川柳社のウェブサイトは、サーバー移転のため、一部サービスが使用できない状況となっております。

みなさんがよく使用する「投句ページ」もすべて Google フォームへ移行して対応しています。

ただ、投句された方から、「画像認証がうまくいなくて投句できない」という声が多く寄せられています。これは、ロボットによる大量投稿を防ぐためのセキュリティとして行われています。

画像認証が出てくる人と出ない人がいますので、下記の方法をいくつか試してください。

①「Google Chrome」でウェブサイトを開覧する。

Android のスマホだと標準で「Google Chrome」となっているのですが、iPhone は標準が「Safari」になっているため、画像認証が出てくるようです。**iPhone の方は、右の QR コードから「Google Chrome」をインストール**してみてください。



② Google アカウントを作成する

iPhone の「Safari」を使用している場合、**Google アカウントを作成してログイン**すれば、画像認証は出てこなくなります。Google アカウントを作成しておけば、いろいろなサービスがありますので、作ってみてはいかがでしょうか。



③画像認証を突破する

画像認証は右の例でいうと、9つのタイルから自動車が映り込んでいるものを**すべて選択**します。なかには、ギリギリに映り込んでいるものもありますので、注意が必要です。ただ、**間違えても全然大丈夫**なので、それらしいものを選択して「確認」を何度か押してみれば突破できるはずですよ。



わかりにくい問題だった場合、ここで問題を変えれます



□ 2024.06.30 第 13 回 東北川柳文学大賞募集

【応募資格】東北6県の在住者（災害による避難先は可）【応募用紙】専用の応募用紙（コピー可）。または A4 版の原稿用紙に縦書き。その際冒頭にタイトル・未発表作品 10 句・郵便番号と住所・柳号（氏名）・電話・所属結社の順で明記。*用紙必要の方は事務局に連絡してください。【応募料】1 篇 ¥1,000（複数応募可）なお、応募時に大賞受賞者句集の予約（句集予約と添書きし、1 冊につき ¥1,200 同封）をいただくと送料無料とします。【締切】2024 年 6 月 30 日（消印有効）【選者】江畑哲男（千葉）・木本朱夏（和歌山）・雫石隆子（宮城）・駒木香苑（福島）・片倉卯月（山形）・長谷川酔月（秋田）・高瀬霜石（青森）・熊谷岳朗（岩手）【賞】大賞 賞状、記念品、副賞として川柳句集の無料発行権と 100 冊を授与。【発表】2024 年 8 月中旬予定（受賞者へ連絡）【表彰】10 月 6 日（日）第 42 回東北川柳連盟盛岡大会 大会席上（予定）【応募先】〒027-0028 岩手県宮古市神林 5-25 東北川柳連盟 東北川柳文学大賞係【問合せ】東北川柳連盟事務局 伊藤豊志 Tel/Fax 0193-62-1137 090-8700-1791【主催】東北川柳連盟

□ 2024.07.07 川柳らくだキャラバン句会

【日時】2024/7/7（日）13:00【会場】ねぶたの家「ワラッセ」会議室【会費】1000 円【兼題（各題 2 句詠）】「らくだ」「エメラルド」「輩（やから）」「密度」「雑詠」【選者】当日発表・雑詠のみくんじろうと共選【席題】当日発表／雑詠選後ディスカッションあり【欠席投句】封書での欠席投句締切 2024 年 6 月 30 日（必着）A 4 用紙（横長い方）を 6 切にして 1 枚に 1 句ずつ書いて、控えを添えて事務局へご送付ください。投句料は定額小為替・現金で（切手不可）ホームページからの欠席投句締切 2024 年 6 月 30 日 23 時 59 分／川柳らくだ事務局 〒567-0057 大阪府茨木市豊川 1-17-6 森茂俊

句会、大会、誌上句会などの情報をお寄せください。

info@okajoki.com

※メール本文にベタ打ちでも構いません。

テキストデータで送っていただけると助かります。

■会費拝受【4月受付分】

大西進・吉松澄子・大内せつこ（以上愛媛県）/ 米山明日歌（静岡県）/ 村上昌子（十和田市）/ 瀧尻善英（八戸市）/ 岩崎雪洲（黒石市）

■おかげょうき川柳社会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかげょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

(〒039-3502 青森市久栗坂字浜田 87-2)

終着駅 Sin

◆最近ではSNSなどで若い人による川柳の話題が多くなってきたように思える。SNSと言えば、昔はmixiとかスマホがない時代からあるが、私はそのSNS内の虚像マウント・ワールドが少し苦手で、専ら見る専門だった。スマホの登場で、Facebook、Twitter、Instagramなど、SNSの世界も様変わりしてきたが、なんとなく苦手な世界であることは変わっていない。最近ではAIが進化して、自分が見た投稿に関連性が高いものがオススメとして表示されるので、慣れていない人は川柳関連の投稿ばかりが目に入ってきて、世の中すべての人が川柳の話題を口にしているような錯覚に陥るので気をつけなければならない◆それはさておき、そんな若い人の発信を眺めていると、公園で自由に遊ぶ子供たちを眺めているような気分になる。「そういう危ないこと俺もしてたなあ」だったり、「へー、そこでそんな遊び方するんだ」などと、私

も川柳歴25年（ジュニア時代を含めれば40年超ww）を超え、たぶん思考がベテランどころか老害の部類に入ってきたような気がする（笑）そんなことを考えていたら、ピカソが晩年に子供たちの絵の展覧会を訪れ、「私は、この年頃にはルネッサンスの天才たちのように正確に上手に絵を描くことができた。でも、この子どもたちのように書けるようになるには一生かかった」という言葉を思い出した。果たして、私は子供たちのような川柳が書けるのだろうか。書けないとしたら、何が邪魔しているのだろうか。経験、知識、技術、記憶、常識など、それらしい容疑者は浮かんでくるものの、それらを全て捨て去って創作することは本当に可能なのだろうか。単純にモニターのように作るだけならAIでも出来る。自分の思考や意図を、経験、常識、知識を捨てた状態で、技術的に作品を仕立てる……………ああもうっ!!◆Sin

おかげょうき川柳社 作品募集案内

□ 2024.06.12 ㄨ 「川柳吟行会 ぼ」6月句会

【投句締切】6月12日（第2水曜日）【題・投句数】『草』2句【合評句会】6月19日（第3水曜日）青森駅前アウガ5階で14:00～【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *

それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方であれば、おかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。【メールでの投句】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛



□ 2024.6.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句(8月号分)

【締切】6月20日必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句（最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】8/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moriko@okajoki.com

守田啓子宛



□ 2024.07.10 ㄨ 「川柳吟行会 ぼ」7月句会

【投句締切】7月10日（第2水曜日）【題・投句数】[『朱』2句【合評句会】7月17日（第3水曜日）青森駅前アウガ5階で14:00～【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *

それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方であれば、おかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。【メールでの投句】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛





川柳ステーション

2024年6月10日発行（年12回発行）第29巻6号通巻363号
 ●発行人／むさし ●編集／Sin ●発行／おかじょうき川柳社 ●表紙題字／金子榮風
 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3 ●E-Mail:info@okajoki.com

トークイベント

「川柳しか勝たん！」



暮田 真名さん

暮田真名（くれだまな）プロフィール
 1997年生。東京都出身。「川柳句会こ
 んどん」主宰。所属ユニットに「砕氷船」
 「当たり」。著書に句集「ふりよの星」、「宇
 宙人のためのせんりゅう入門」など。

特別選（2句詠・事前投句：6/28（金）♫・欠席投句拝辞）

「星」暮田真名 選

メールで投句：moriko@okajoki.com



宿題（2句詠・二人共選）

「外」 くんじろう（大阪府） 共選
 きさらぎ彼句吾（青森県）

「混」 米山明日歌（静岡県） 共選
 奈良一艘（青森県）

2024.7.6（土）14時～
 （受付開始：13:30）

■場所：リンクモア平安閣市民ホール1階「スケルツォ」（JR青森駅東口より徒歩3分）
 （TEL.017-722-3770 / 青森県青森市柳川1丁目2-14）

■会費：5,000円（句会・懇親会費込）